

平成 16 年度附属図書館活動報告書  
—利用者サービスの新たな地平を目指して—

東京大学附属図書館

## はじめに

附属図書館は、東京大学における学習・教育・研究活動の基盤としての役割を果たすとともに、日本全体の知の蒐集・保存・発信の中核として、全国の情報基盤整備に貢献し、国際的な学術情報交流に寄与することを基本理念としている。

平成16年度は、国立大学法人化の1年目として、東京大学の中期目標・中期計画に基づきながら、学習・教育・研究情報環境の基盤整備に向けたさまざまな事業を実施した。なかでも、全学資料購入集中処理システムの運用開始、柏図書館の開館と自動化書庫システムの導入、e-DDS（電子的文献デリバリーシステム）、eBOOK、ASK、デジタル新刊図書コーナーなどの新たな電子的サービスの立ち上げ等、学生・教員へのサービス向上に直結した諸活動は特筆できるものと考えている。これらは、図書館職員の日々の奮闘の結果ではあるが、関係各方面のご理解とご支援があっはじめて実現できたものであることは言うまでもない。

ここに、一年間の事業成果をとりまとめ公開するが、皆様の忌憚のないご批判、ご意見を頂戴し、東京大学附属図書館の今後の発展の糧とできれば幸甚の至りである。図書館の活動に対して、一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

平成17年9月16日

東京大学附属図書館長

西郷和彦

## 目 次

1.	附属図書館基本規則等の改正.....	1
2.	全学資料購入集中処理システム.....	2
3.	学習用図書 of 整備充実.....	3
4.	目録情報の遡及入力	
4.1	全学遡及入力 10 ケ年計画の推進（第 10 年次）.....	4
4.2	国立情報学研究所（NII）遡及入力事業への参加.....	6
5.	図書資産の管理.....	7
6.	柏図書館の開館.....	8
7.	自動化書庫の導入と e-DDS サービス.....	9
8.	eBOOK サービス.....	11
9.	ASK サービス.....	12
10.	韓国との文献複写サービス.....	13
11.	デジタル新刊図書コーナー.....	14
12.	利用者サービス体制の改善（総合図書館）	
12.1	カウンター配置の変更.....	15
12.2	入館手続きの簡略化.....	16
12.3	書庫内資料利用方法の改善.....	17
12.4	マナーアップキャンペーン.....	18
13.	利用者に分かりやすい広報印刷物の作成.....	19
14.	展示・講演会の開催.....	20
15.	事務改善と経費節減の取組み（総合図書館）.....	21
16.	全学図書館・室業務連絡会議の改革と業務別部会の活動.....	22
17.	職員研修の活性化.....	23
18.	ジュニア TA の活用（総合図書館）.....	24
付 録	A-1 平成 16 年度附属図書館活動日誌.....	27
	A-2 平成 16 年度附属図書館会議開催一覧.....	28
	B-1 平成 16 年度附属図書館統計表.....	29
	B-2 附属図書館統計経年変化.....	30

## 1. 附属図書館基本規則等の改正

### (1) 附属図書館中期目標・中期計画

第 364 回図書行政商議会（平成 15 年 2 月 21 日）で承認された「東京大学附属図書館中期目標・中期計画」では、附属図書館運営の原則を「共働する一つのシステム」と設定し、「東京大学の新たな学術情報システムの構築に見合う形で、商議会の組織と役割を改革する」ことが謳われた。その方策として、商議会は附属図書館の基本政策について審議・決定することとし、新たに設ける附属図書館運営委員会（仮称）にできるだけ権限を委ね、キャンパス部会（仮称）が各キャンパスに関わる事項を扱うことが示された。

また、附属図書館長の選考方式についても新しい方式を確立することが謳われた。

### (2) 附属図書館運営委員会とキャンパス部会の設置

これらの改革案を実現するため、平成 16 年度の商議会では審議を重ね、平成 17 年 3 月 17 日、「東京大学附属図書館基本規則」を改正し、附属図書館長の下に新たに「附属図書館運営委員会」を置くことを定めた。同時に、東京大学の三極構造の下で、各キャンパスの独自性をもった発展を促進することを目的に、「東京大学図書行政商議会規則」を改正し、「キャンパス部会」の設置を定めた。

これら規則改正の結果、商議会は、各キャンパスにかかわる事項はできるだけキャンパス部会に、全体に関わる事項はできるだけ附属図書館運営委員会に委任し、議案の振分けの基本方針は商議会が定め、その具体的な適用は附属図書館運営委員会が行うこととなった。

### (3) 館長選考方式の変更

附属図書館の選考は、従来「東京大学附属図書館長選考内規」に基づき行っていたが、平成 16 年 12 月 17 日これを廃止し、「東京大学附属図書館長選考規則」が新たに制定された。

大きな変更点は、「館長選考委員会」での無記名投票により館長候補者を「選出」し総長に報告していたことを改め、「館長候補者推薦委員会」が総長の諮問に応じて館長候補者「推薦」の答申を行うことにしたこと、館長候補者の資格を、「東京大学教授」から「東京大学の教職員」に改めたことである。また、総長は委員会が推薦すべき候補者の数及び要件を指定することができることとし、館長選考に総長のイニシアチブが発揮できることを可能にした。

なお、「東京大学附属図書館長選考内規」は、平成 14 年度から 16 年度の間、暫定的に施行を停止し、総長が指名する副学長が館長を兼ねることとなっていたが、平成 17 年度からは、館長職が直接、副学長職と結びつけられることはなくなった。

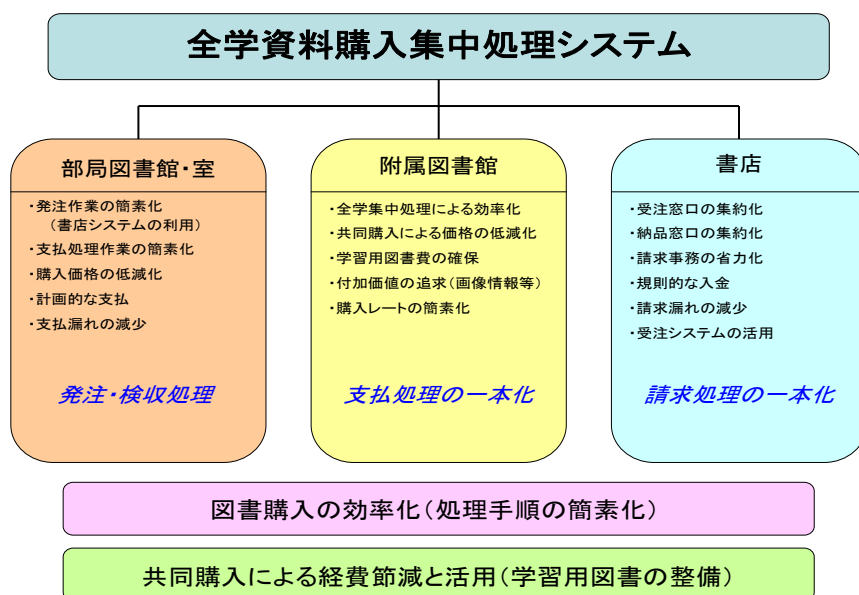
## 2. 全学資料購入集中処理システム

### (1) システムの目的

本システムは一種の図書の協同購入プランである。インターネットからの直接発注を促進し、支払処理を集約することにより、書店等の負担を軽減するとともに購買の効率化を実現し、総合図書館、駒場図書館、柏図書館を中心に全学生のための学習用図書の充実を図ることを目的としている。

### (2) システムの運用

「平成 16 年度東京大学年度計画」に謳われているように平成 16 年 6 月から暫定運用を開始し、12 月に本格運用を実施した。11 月には運用規則「東京大学全学資料購入集中処理システムの運用について」を定め、利用振替金は図書代金と同時に徴収することにした。また、予算コードごとの利用振替金計算を自動的に行うように図書館電子化システムを改修した。



### (3) 平成 16 年度の実績

次の 14 図書館・室、大手 12 書店が参加した。

参加図書館・室：総合図書館、柏図書館、理学部（物理、化学）、駒場図書館、自然科学図書室、アメリカ太平洋地域研究セ、農学部、新領域、物性研、先端研、海洋研、宇宙線研、分生研

参加書店：インフォトレダ、紀伊国屋書店、国際書房、三省堂書店、ジュンク堂書店、東大生協、図書館流通センター、ニュートリノ、緑書房、

### 雄松堂書店、ユニブック、丸善

システムを利用して14,116冊の図書が購入され、総取扱い金額は82,399千円にのぼった。通常の購入金額に比べて、4,998千円を節約することができ、節約額は学習用図書費等に充当した。

#### (4) 今後の課題

今後の課題として、参加図書館・室と参加書店を拡大すること（平成17年度より法学部、医学部、工学部、文学部、生産研の各図書館・室、アカデミア、極東書店、ナウカ、光洋書、ブックマン、友隣社の各書店が新たに参加の予定）、図書館備付資料だけでなく研究室購入の消耗品図書の購入も積極的に取り扱うこと、及び、クレジットカードなど多様な支払方法に対応することが挙げられる。

### 3. 学習用図書の整備充実

#### (1) 予算の配分

図書館資料を充実させ、学習環境を整えていくことは本学附属図書館に課せられた使命である。学生生活実態調査でも図書充実の強い要望が寄せられており、「平成16年度東京大学年度計画」においても総長裁量経費で学生用図書の充実を図ることが謳われている。附属図書館では教員、大学院生、学生の3つの視点から学習用図書を選定する計画を立てたところ、総長の特別な配慮により50,000千円の配当を受け、学習用図書を大幅に整備充実することができた。

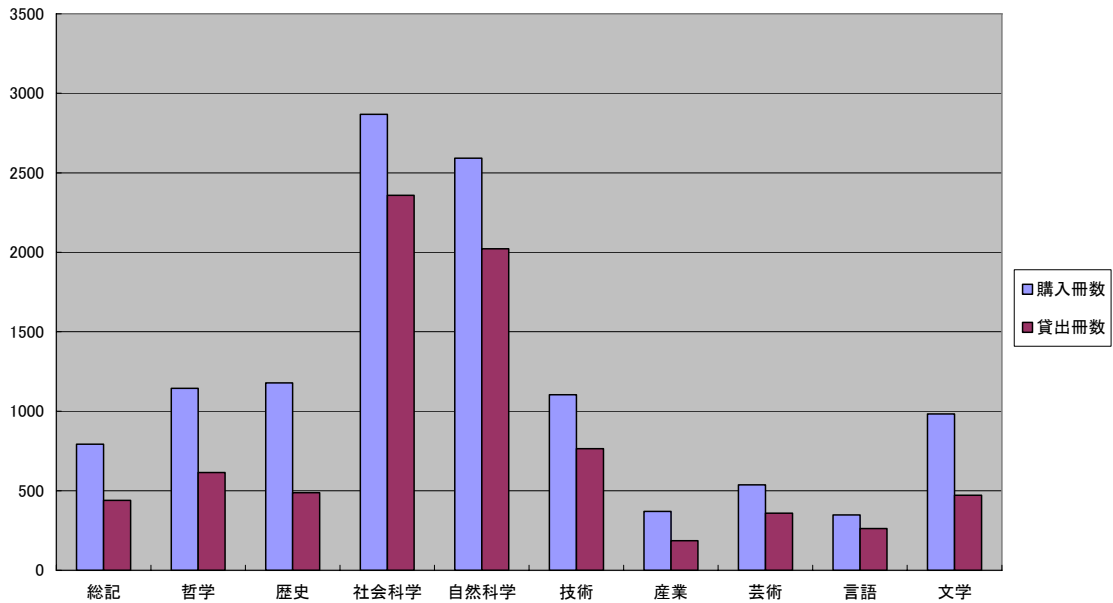
#### (2) 購入冊数と金額

	和図書		洋図書		小計	
	冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額
総合図書館	1,830	6,429,972	449	3,532,695	2,279	9,962,667
駒場図書館	6,727	22,649,974	937	7,398,476	7,664	30,048,450
柏図書館	1,810	7,289,207	163	2,710,890	1,973	10,000,097
合計	10,367	36,369,153	1,549	13,642,061	11,916	50,011,214

#### (3) 図書の利用状況

この枠組みで購入した学習用図書の利用状況は、次のグラフの通りである。半年間の貸出回転率（図書1冊あたりの貸出回数）は0.67であり、総合図書館の全開架図書の0.32の約2倍以上の数値を示しており、非常によく利用されていることがわかる。

分野別貸出冊数(平成17年1~6月)



#### (4) 学生のアクセス環境改善

総合図書館、駒場図書館、柏図書館に「学生のための学習用図書」コーナーを設け、図書現物を展示した。また、携帯アクセスサイトのデジタル新刊図書コーナーに購入図書のリストを掲載し、書誌所蔵情報に加えて、表紙画像も閲覧できるようにし、学習用図書の品揃えを積極的に宣伝するとともに、アクセス環境の改善を図った。

#### (5) 今後の課題

最新の図書を学生に対して供給し続けるためには、今後も引き続きこうした予算が必要である。また、主題分野に偏りのないバランスのよい選書ができる図書選定体制を整備する必要がある。

### 4. 目録情報の遡及入力

#### 4. 1 全学遡及入力10ヵ年計画の推進(第10年次)

##### (1) 平成16年度の実績

総合図書館・法学部研究室・医学図書館・文学部図書室・社会科学研究所図書室・東洋文化研究所図書室の6部局が参加して、9万冊の予定で目録情報の遡及入力を実施した。全体では最終的に約9万8千冊の入力が終了した。

## (2) 全学遡及入力 10 ヶ年計画の実績

平成7年度の計画開始時点で遡及入力を必要とする全学の図書 350 万冊を対象に 16 部局の参加を得て、10 ヶ年計画で実施された。最終年度となった 16 年度の入力冊数を含め、計画全体の最終入力冊数は約 114 万 4 千冊となり、計画当初予定した入力目標 90 万冊を大幅に上回る結果となった。

全学遡及入力計画入力冊数(単位は冊)

部局名	遡及入力冊数	部局名	遡及入力冊数
総図	239,854	東文研	85,785
法学部	71,548	社研	129,990
医学部	20,373	史料	68,823
文学部	166,317	情報学環*	52,338
農学部	10,167	物性研*	9,411
経済学部	80,776	海洋研*	9,659
教養学部	176,640	先端研*	15,536
教育学部*	3,597	核研*	3,143
		合計冊数	1,143,957

\*は遡及入力が終了した部局

## (3) 遡及入力事業の成果

全学遡及入力 10 ヶ年計画の成果は以下のとおりである。

### ①利用者サービスの向上

遡及入力開始前はカード目録と OPAC の両方を検索する必要があったが、現在では OPAC 検索に一元化する方向で進んでおり、利用者の利便性は格段に向上した。OPAC はインターネットに公開しており学外からの検索も可能なことから、ILL 等による図書資料の共同利用の促進にも寄与している。

### ②業務の効率化

蔵書の遡及入力の進展によって、閲覧システム導入の準備が整った図書館・室が年々増えている。閲覧システムを導入している図書館・室は、この 10 年で 2 図書館から 17 図書館・室にまで拡大した。図書貸出手続きが簡略化され、利用者サービスの向上と同時に、業務の省力化が実現できた。

### ③図書資産実査への寄与

遡及入力は図書現物をもって行うことから、遡及入力作業そのものが実査の作業を兼ねることになる。また入力作業と同時にバーコードラベルを図書に貼付しているため、実査の際はスキャンをすればよいため、作業の効率化にも寄与している。



#### ④波及効果

この事業が呼び水となって部局経費による遡及入力が始まったのははじめ、科研費・文部科学省経費や国立情報学研究所の事業等を活用して積極的に遡及入力を実施されるようになった。その結果、この10年間で学内全体では200万冊の遡及入力が終了し、150万冊の入力を残すまでになった。

部局別遡及入力が必要な図書の数 (単位は冊)

部局名	未入力冊数	部局名	未入力冊数
総合図書館	260,000	医科研	3,500
柏図書館	0	地震研	0
法学部 *1	350,000	東文研	23,700
医学部	6,400	社研	22,000
工学部	110,000	情報学環	0
文学部	300,000	生産研	15,000
理学部	44,000	史料編纂所	5,000
農学部	25,000	宇宙線	0
経済学部	20,000	物性研	0
教養学部 *2	300,000	海洋研	0
自然科図書室	3,000	先端研	0
教育学部	0	アイソトープ	0
薬学部	500	合計	1,503,200
数理科学研究科	15,000		
情報理工	100		

数字は平成17年3月末

\*1 外国法文献センター及び明治文庫を含む冊数。

\*2 駒場図書館配架資料の入力は終了。研究室配架資料の遡及入力が残る。

#### 4. 2 国立情報学研究所 (NII) 遡及入力事業への参加

##### (1) NII の採択状況

平成16年度からNIIにおいて、NACSIS-CATの核となる書誌レコード作成に重点に置いた提案公募型の遡及入力事業が開始され、本学からは4部局が応募し、4件、計46,000冊が採択された。内訳は以下のとおりである。

##### ①人文・社会科学系コレクション

総合図書館・法学部研究室から法学・政治学コレクション 18,000冊 (和・洋書)

②多言語資料（中国語）

文学部図書室・東洋文化研究所 20,000 冊

③多言語資料（アラビア文字資料）

文学部図書室・東洋文化研究所 5,000 冊

④半自動モードを用いた自動登録システム実証実験

総合図書館 3,000 冊（柏図書館開館準備用和・洋図書を対象）

(2) 中国語図書の入力

文部科学省「図書館機能高度化経費」の配分による中国書図書の遡及入力（平成 12～15 年度）とあわせ、本学所蔵の中国語図書約 18 万冊を入力し、漢籍を除く学内の中国語図書の大半の目録情報を公開することができた。

(3) 自動登録システム実証実験

この実証実験は、NACSIS-CAT に所蔵情報を登録する半自動モード自動登録ソフト（NC-AUTO 2）の遡及入力への有効性を評価することを目的に行なわれた。このソフトの以前のバージョン（CATP-Auto）は、平成 10 年度に東京大学附属図書館が企画・設計を行い、文部科学省より予算を獲得して開発し、全国立大学図書館に無償配布されたものである。

東京大学（柏図書館建設に伴う所蔵情報の登録）、大阪大学（中国書の叢書の遡及入力）、九州大学（所在変更による所蔵情報の変更）、三重大学（個人文庫の遡及入力）の各図書館の共同プロジェクトとして実施し、実験結果の報告書が NII ホームページで公開されている。[http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat\\_info\\_catpauto2.html](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_info_catpauto2.html)

5. 図書資産の管理

(1) 図書・雑誌の取扱いについて

国立大学法人化に伴い、図書・雑誌は「国立大学法人会計基準」及び「東京大学固定資産管理規程」による管理が必要となったことを受け、附属図書館では「図書・雑誌の取扱いについて」を制定し、図書資産の範囲、管理、取得・除却の方法など具体的な事項を定めた。同時に、学内図書館職員に対する説明会を開催し、取扱い方法の周知を図った。これにより、図書館・室で管理している図書・雑誌で、1 年以上利活用を予定するものは資産とし、雑誌の資産計上は製本の時点とすることとした。

(2) 図書資産の実査

東京大学固定資産管理規程に基づき、有形固定資産の実査の作業が必要となったが、図書資産については資産の特殊性を配慮し、一般物品とは別に「図書資産の実査の実施要領」

を定めた。

これにより、①毎年1回以上実施すること、②最大限10年（蔵書10万冊未満の図書館においては5年）のサイクルで全蔵書の実査を完了することとなった。

「国立大学法人東京大学の中期目標・中期計画」でも、本学の所蔵する学術的に貴重な物品・図書・資料が良好な保全管理状態に置かれるように努めることとしており、蔵書点検は必須の業務となる。

### (3) 資産テーブルの新設

一般物品の資産管理は財務会計システムに資産を1点ずつ登録することによって行われるが、図書は点数が多いために、金額のみを財務会計システムに登録し、明細を図書館システム上に登録することになった。このため、資産テーブルを新設しこれにデータを搭載するように図書館電子化システムを改修した。また、同システムの受入データを利用して未払金伝票・振替伝票用データを生成する機能を追加した。

## 6. 柏図書館の開館

### (1) 部分開館から全面開館へ

平成16年2月の竣工以降、開館に向けての準備を進めてきた柏図書館は、5月の部分開館を経て、自動化書庫・メディアホール等の設備が整備されたのに伴い、平成17年2月に全面開館した。

柏図書館全景



## (2) 開館記念式典

平成 17 年 2 月 22 日にメディアホールで執り行った記念式典では、佐々木総長はじめ学内関係者のほか、文部科学省、千葉県、柏市、流山市関係者など約 200 名の参加があり、あわせて行われた館内施設見学会では、自動化書庫や e-DDS のデモンストレーションのほか、総合図書館所蔵「モース文庫」展示を行った。引続き柏キャンパスカフェテリアで祝賀会を行った。

## (3) 柏キャンパスの中心的図書館として

平成 16 年 4 月 1 日東京大学柏図書館規則が施行され、初代柏図書館長として新領域創成科学研究科西郷和彦教授が就任し、同時に 3 係体制（物性研究所、宇宙線研究所図書室を含む）からなる柏図書館事務組織を発足させた。

柏図書館は、次世代型図書館として、多様なメディアの情報を提供する学習研究図書館機能、全学資料共同利用センター機能とともに、社会文化空間を提供し、学内だけでなく、地域社会にも開かれた図書館を目指して活動を開始した。

## 7. 自動化書庫の導入と e-DDS (electronic Document Delivery System) サービス

### (1) 自動化書庫の設置

柏図書館では、自然科学系雑誌のバックナンバーを全学から集中保管し、提供を行うため、収納密度が高く、少ない労力で膨大な数の資料の運用を可能にする自動化書庫を導入した。

16 年度は第 1 期分として 50 万冊相当収容の自動化書庫を設置し、12 月末の竣工の後、3 月に運用を開始した。第 2 期としてさらに 50 万冊相当収容分の増設を計画しており、合計 100 万冊相当収容の国内最大規模の自動化書庫とする予定である。

出納ステーション



自動化書庫ラック



自動化書庫は、館内に設置した蔵書検索システム（OPAC：Online Public Access Catalog） 端末から出納の指示ができ、雑誌は約2分でステーションに到着する。連続で出納した場合には1時間に100コンテナ以上の入出庫が可能である。

### (2) e-DDS サービスの開始

柏図書館では、自動化書庫と連動して文献を利用者の手元まで電子的に届ける e-DDS サービスを3月1日に開始した。

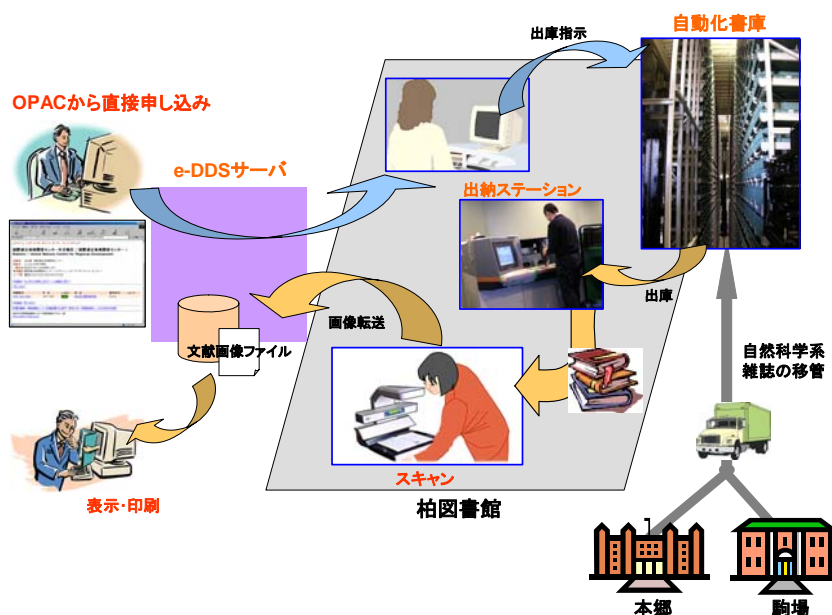
学生・教員が OPAC から必要な文献のコピーを申込みと、雑誌の該当ページをスキャンして画像データをサーバに一時保存する。申込者は、電子メールで通知される画像データの URL をクリックして文献を表示・印刷することができる。柏図書館では、申込みから30分以内に文献を届けることを目指している。

### (3) e-DDS サービスの効果

これまで、他キャンパスの図書館に所蔵されている文献のコピーを取り寄せるには、何回も図書館に足を運ぶ必要があり時間もかかったが、e-DDS サービスの開始により、柏図書館所蔵の文献は、30分以内での取り寄せが可能となり、情報アクセスの利便性が格段に高まった。

利用者サービスの向上のみならず、書架からの雑誌取出しと返本作業が効率化され、またコピーの封筒詰め等紙のハンドリングがなくなったため、業務の省力化も同時に実現することができた。e-DDS は、次世代型 ILL（Interlibrary Loan）システムとしても位置付けられており、今後、国内の図書館のほか、アメリカや韓国の大学図書館にサービスを拡大することも計画している。

自動化書庫と e-DDS のイメージ



#### (4) 柏図書館への雑誌移管

自動化書庫に収納する雑誌バックナンバーは、各図書館・室において、他図書館・室分との重複調査、移送資料の確定、リスト作成、資料 ID ラベル貼付等の作業を行い、1月に110,000冊、3月に33,000冊を柏図書館へ搬送した。

総合図書館では、情報管理課内に立ち上げた資料移管プロジェクトが中心となって、平成15年度よりこれらの作業を行った。移管した雑誌のなかで最も古いものは、総合図書館で所蔵していた”Philosophical transactions” Royal Society of London Vol.1(2)(1665)である。

平成16年度に柏図書館に移管した雑誌6,855タイトル、143,000冊の内訳は次のとおりである。

医学図書館から	74,000冊
総合図書館から	33,000冊
農学生命科学図書館から	13,000冊
理学部図書室から	2,000冊
工学部図書室から	22,000冊

### 8. eBOOK サービス (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/eBook.html>)

#### (1) eBOOK の導入

学術雑誌の主要な部分が電子ジャーナルへ移行しつつあるなか、これまで印刷出版されてきた学術図書についても、電子化の動きが加速している。eBOOK は、書籍として出版されたものを電子化し、ネットワーク上から閲覧できるものである。

5月の柏図書館部分開館を機に、米国 OCLC (Online Computer Library Center) の提供する netLibrary の496タイトルを購入し、さらに無料で利用できる3,407タイトルを加え、合計3,903タイトルのeBOOKを学内全キャンパスに向けて提供を開始した。購入にあたっては、小宮山・附属図書館長(現総長)、西郷・柏図書館長(現附属図書館長)、大矢・新領域創成科学研究科教授(現柏図書館長)からご支援をいただいた。

eBOOK は、図書館の開館時間に拘束されず研究室等の PC からいつでも利用できる、キーワードから必要な図書が容易に探し出せる、個人的なコメントを個々の図書について付加でき繰り返し利用できる、等の特長を備えている。

#### (2) 利用状況

平成16年5月～17年3月の利用実績は次の表の通りである。なお、学内からの利用は手続き不要であるが、自宅等学外からのアクセスにはユーザ登録が必要であり、登録者は計127名である。



購入 496 タイトルの利用頻度

20 回以上	8
20 回未満	39
10 回未満	449

分野別利用頻度 %

物理学	31.5
生物・ライフサイエンス	30.6
工学・技術	17.4
化学	13.4
自然科学全般	3.9
薬学	0.8
農学	0.3
歴史	0.1
法律	0.1
ビジネス・経済	0.1

(3) 今後の課題

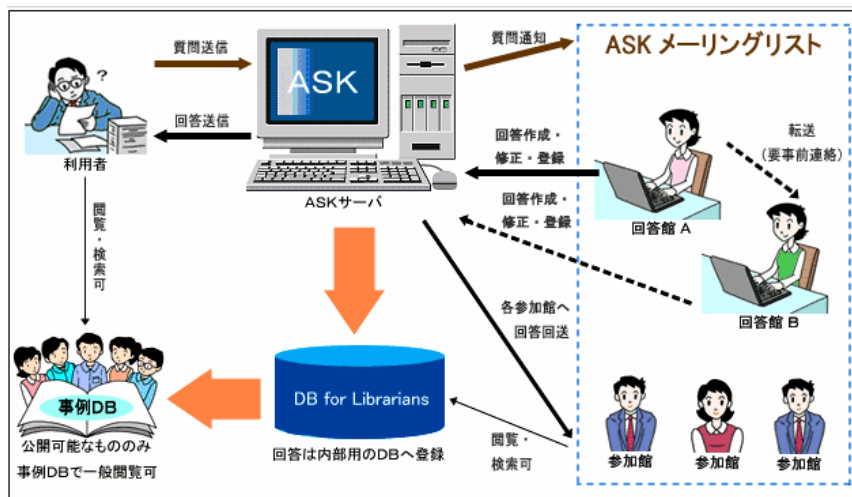
今後利用件数は伸びていくものと予想しているが、利用の定着に向けて、広報や活用方法についての利用者支援を行っていくことが必要である。また、OCLC 以外の eBOOK も含めた利用環境の統合や外部データベース、電子ジャーナル論文とのリンクも、課題として挙げられる。

9. ASK サービス (<https://ds.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/index.html>)

(1) 試行サービス

ASK (アスク : A あなたの、S しつものに、K こたえます) サービスは、文献・情報の探し方などの調べものに関する質問 (レファレンス質問) を Web から申し込めば、メールで回答を得ることができるサービスである。回答は学内の ASK サービス参加図書館・室のうち最も回答に適した図書館・室から送信するようになっている。質問及び回答はキーワードの付与、プライバシー保護等の編集・加工をした上で事例データベースに蓄積し、利用者にも公開される。

ASK サービス・業務の流れ



運用規準・レファレンスポリシー等を作成し、平成 17 年 3 月に学内者を対象とした試行サービスを開始した。3 月末の時点で、28 の図書館・室が参加している。

## (2) サービスの効果

これまで利用者は、図書館カウンターに直接来たり、電話等で質問をする必要があった。ASK サービスでは、図書館の開館時間を気にしないで、研究室などから質問を出すことが可能となり、事例データベースの活用によって、過去の同じような質問については検索結果をみるだけで解決できるようになり、利用者の利便性が向上した。

同時に、質問回答事例の蓄積・公開によって、質問そのものが減少することが期待でき、また事例の共有により、業務効率化や職員のレファレンス技能の向上を目指すことが可能となった。

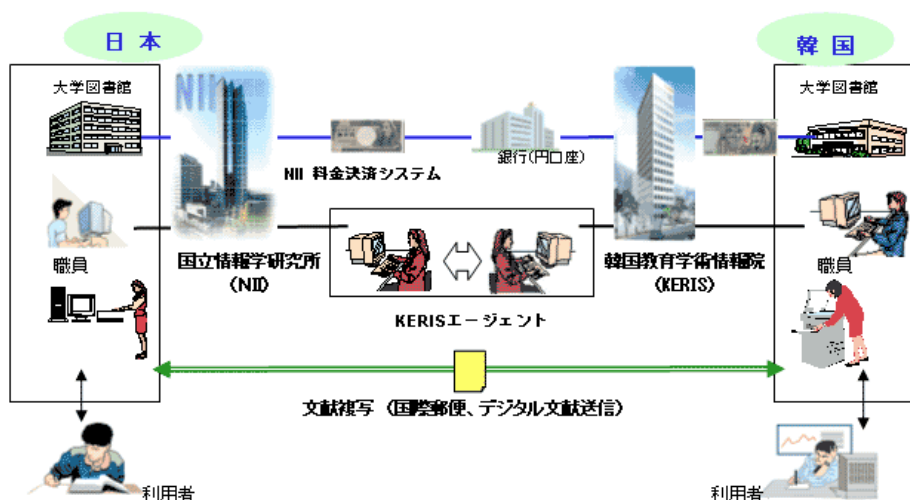
## 10. 韓国との文献複写サービス

### (1) 日韓 ILL/DD 運用テスト

平成 16 年 8 月から、GIF による日韓 ILL/DD の運用テストを開始した。GIF (Global ILL Framework) とは、ネットワーク環境において資源共有の理念を地球規模で実現しようという枠組みのことで、国立大学図書館協会、NII 等が海外機関と協力して、国際的な図書館間相互貸借 (Interlibrary Loan / Document Delivery : ILL/DD) を実現するためのプロジェクトである。

東京大学附属図書館は、韓国 Sogang University Library を相手館として、相互に文献複写の依頼・受付レコードをやり取りし、実際に複写物を送付するテストを行い、依頼・受付の処理時間、参照する所蔵データの問題、著作権についての理解と認識、依頼・受付レコードの記述方法など、検討すべき点の確認を行った。

### 日韓間ドキュメント・デリバリーの概念図





## (2) 暫定サービス

以上の運用テストを受けて、韓国の大学図書館との文献複写サービス（暫定サービス）を11月より開始した。平成14年度に開始した米国とのサービスに次いで2つ目の相手国となる。

## (3) サービスの効果

これまで、韓国からの文献複写依頼は有効な料金徴収の手段がなかったため、謝絶するか無料で複写物を送るか、いずれかの対応を取らざるを得なかったが、このサービスはNIIのILL料金相殺サービスによって料金を決済できるので、より適切なサービスができるようになった。

## (4) 今後の課題

このサービスはIFLA（International Federation of Library Associations and Institutions 国際図書館連盟）の国際ILLの考え方に従い、自国で発行された出版物の複写提供を原則とするが、実際は、欧米の出版物に対する複写依頼、問合せも多く、基本方針の周知、サービス方針の再検討が必要である。さらに、現物貸借サービスの開始のためには、参加各図書館・室におけるレンディングポリシーの整備とそのわかりやすい表示が必須である。

### 1.1. デジタル新刊図書コーナー (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/ktai/>)

#### (1) 新しい携帯アクセスサイト

総長裁量経費により購入した学習用図書の表紙画像を携帯電話から閲覧できるサービスを開始した。書店の書棚や新聞・雑誌等で利用者が目にする書籍のイメージをそのまま表示でき、図書館で本を探す場合に役立つことができる。

#### デジタル空間の中の「新刊図書コーナー」



二次元バーコードとデジタルサイト

従来から携帯電話では、OPAC とブックコンテンツデータベースとの連携により目次データ、概要などのテキストベースの情報を利用者に提供していた。今回は、提携書店のデータベース上の画像データへのリンクによって、表紙画像の表示を可能にした。携帯電話の画面サイズを想定して 1 行あたりの文字数、改行位置、画像ファイルサイズなどを調整したページとしている。

## (2) 2次元バーコードからのアクセス

柏図書館開館記念式典で配布した栞には 2 次元バーコードを印刷し、携帯電話から読み込むことで、URL を打ち込まなくてもアクセスできるようにした。

### 1 2. 利用者サービス体制の改善 (総合図書館)

#### 1 2. 1 カウンター配置の変更

##### (1) 従来のカウンター配置の問題点

総合図書館の 1 階にはこれまで、受付カウンター、情報サービスカウンター、参考調査カウンター、書庫・雑誌カウンター、開架図書カウンターがあり、それぞれが近接して設置されていたとはいえ、太い柱等の配置上の問題から、必ずしも機能的に連携がとれているとは言えない状態であった。

##### (2) カウンター配置の変更

平成 17 年 3 月に、利用者に使いやすいカウンター、職員が連携して利用者サービスに当たれるカウンターを目指して、次のような配置の変更を行った。

- ① 1 階入り口の受付カウンターを下げ、かつ、情報サービスカウンター、参考調査カウンターを前に出すことにより、3 カウンターを統合した総合案内カウンターを作った。
- ② 1 階奥にあった開架図書カウンターを総合案内カウンターに統合した。
- ③ 1 階奥の階段下にあった書庫・雑誌カウンターを、これまでの開架図書カウンターのあった位置に移動し、利用者から分かりやすくした。また、書庫の入り口近くにセルフ式コピー機を配置した。
- ④ カウンター、セルフ式コピー機の配置変更により、入り口に近いスペースを利用者用のラウンジとして広く確保した。

##### (3) 利用者の利便性の向上

カウンター配置の変更によって、次のようなサービス改善を図ることができた。

- ① 入り口のスペースが広がったので、学外者等の入館手続きに余裕を生み出した。
- ② 図書返却ボックスを入館ゲートの外に置いたので、返却のために来館した利用者は入館

ゲートを通ることが不要になった。

③自動貸出機を総合案内カウンターの近くに増設したので、総合案内カウンターでの貸出・返却とあわせて、開架図書の貸出が便利になった。

④これまで別々のカウンターで行っていた学内者の利用証発行と卒業生の入館証発行窓口を、総合案内カウンターに統一した。

⑤書庫内資料用セルフ式コピー機の設置により、書庫内資料の複写のためだけに館内閲覧手続きをとることが不要になった。

⑥貴重書など古い資料の複写申込みは、従来書庫・雑誌カウンターでの貸出手続きの後、情報サービスカウンターでさらに複写手続きが必要であったが、書庫・雑誌カウンターだけで手続きが完了するようになった。

#### (4) サービス業務体制の改善

カウンターでの利用者サービス業務は、従来各係の窓口分担が固定していて、一つの窓口の利用者が並んでも、他の係員は内容が分からないため応援に行けない不親切な体制であった。

今回のサービスカウンター配置の変更に合わせて、サービス業務体制を抜本的に改善し、どの係員でも全ての窓口業務が行えるようにし、利用者の状況に合わせて臨機応変に応援に入ることが出来るようになった。

このため、繁忙期でもカウンターに利用者が並ぶことが以前より少なくなった。さらに、総合案内カウンターと書庫・雑誌カウンターの距離が近くなり、相互のカウンターの状況が良く見えるようになったため、一方のカウンターが混んでいるときには他方から応援にかけつけることが出来るようになった。

これらの改善により、カウンターサービスの目標である「利用者を待たせない」「困っている利用者はこちらから声をかける」ことが十分に実現できるようになった。

### 12.2 入館手続きの簡略化

#### (1) 従来の入館ゲートシステムの問題点

これまで総合図書館の入館ゲートにおける利用者認証は、利用証に、身分・学年等で分類した入館用バーコードシールを貼付して行っていたが、利用者登録データとは別に入館用バーコード ID の体系を維持する必要があること、シールの印刷・貼付の手間が煩雑であること、個人を特定できないグループごとに共通したバーコードであるために不正使用が多くみられたこと、等の問題があった。

#### (2) 入館ゲート認証システムの更新

これらを改善するため、総合図書館では、利用証の利用者 ID（図書館電子化システムの

利用者データ)を認証に利用するシステムを平成16年10月28日から導入した。これによって、入館用バーコードシール作成の必要がなくなり、シール貼付の手間が、職員・利用者共に解消された。

また、利用期限が利用者データに直接対応しているため、短期間の在籍者等にも正確に対応できるようになり、また利用証の紛失の際も不正利用の心配がなくなった。さらに、身分・部局等の統計がきめ細かく採取できるため、利用状況を正確に把握し、今後の運営に活用することが期待できる。

### (3) 学外者入館手続きの簡略化

学外者の入館手続きが利用者の所属機関によって幾パターンもあり、利用者、職員ともに煩雑であったものを、統一および簡略化した。また、情報公開法に対応するために、一般市民の利用のための事前申込みを廃止し、同一フォーマットの「一日入館証」を発行することにした。但し、大学図書館等の紹介状持参の場合は最大2週間までの延長を可能とした。

## 1 2. 3 書庫内資料利用方法の改善

### (1) 書庫の入庫方法の変更

従来、利用者が書庫に入る際には、附属図書館利用証(以下「利用証」)や身分証・学生証などを預かっていたが、17年度から身分証・学生証がICカードになりクレジット機能を付帯しているものもあるため、防犯上のリスクを考え、利用証や身分証・学生証を預かる方式を中止した。

代わって、利用証の利用者IDを入力すると入庫できる利用者かどうか判別するシステムを開発し、入庫時に利用証のチェックをするようにした。このシステムは、入庫者の管理だけでなく、入庫者数の統計も作成可能である。

### (2) 書庫貸出票の廃止

従来は書庫内資料を貸出するためには利用証の他に「書庫貸出票」が必要であり、年度毎に更新するなど煩雑な面があった。この書庫貸出票を今年度から廃止し、書庫内資料も開架資料と同じく利用証で貸出できるようにした。

### (3) 書庫内資料貸出のシステム化

書庫内資料はその内容の複雑さや膨大な数量のために遡及入力完了しておらず、これまでシステムによる貸出が困難であった。全学遡及入力10ヶ年計画の成果もあり、書庫内資料の入力率が上がったため、貸出のシステム化に踏み切った。これにより、利用者は貸出申込用紙に記入する必要がなくなり、開架図書と同様の手続きで貸出・返却処理でき

るようになった。

#### (4) 改善の成果

これらの手続きの変更、廃止、システム化を行うことによって、利用者の利便性が格段に向上するとともに、業務の効率化も実現することができた。

### 12.4 マナーアップキャンペーン

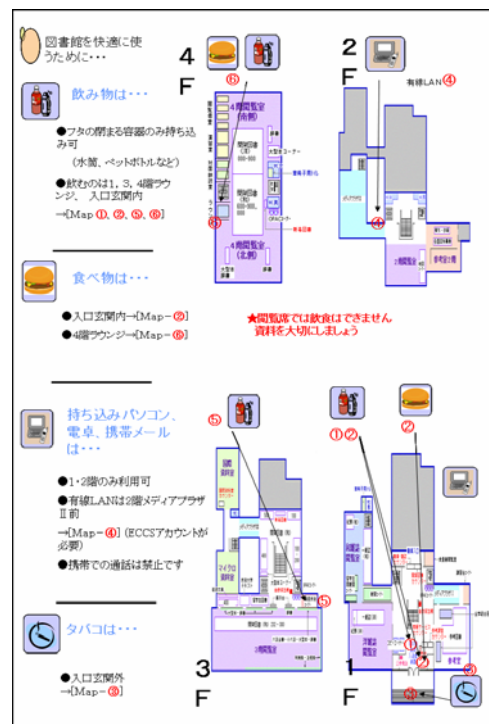
#### (1) キャンペーンの企画

総合図書館は、9月下旬に行った4階ラウンジ改修整備による休息スペースの確保、全館禁煙化を機に、総合図書館を快適にかつ大切に利用してもらうために、利用者に基本的なマナーを周知するマナーアップキャンペーンを企画した。情報サービス課内にキャンペーン企画実施のためのプロジェクトを編成し、ポスター・リーフレット等の作成を行った。

今回、利用者に特に呼びかけた事項は、飲食場所の制限、全館禁煙、パソコン使用可能なエリア、携帯電話・館内撮影の禁止、盗難注意である。

#### (2) キャンペーン期間中の取り組み

平成16年9月～10月のキャンペーン期間中は、館内にポスターを貼り、リーフレットを利用者一人一人に手渡すとともに、図書館職員全員がキャンペーンバッチを付けてカウンター等で利用者と対応した。利用者からはマナーに関する意見も伺い、今後も定期的にこのキャンペーンを実施し、総合図書館のよりよい利用環境を作って行く予定である。



### 1.3. 利用者に分かりやすい広報印刷物の作成

#### (1) 広報印刷物の見直し

附属図書館における事務改善への取組みのなかで、広報印刷物のあり方について種々見直しを進め、以下のようなリニューアルを行った。

#### (2) 『図書館の窓』の一新

『図書館の窓』は、読者ターゲットが明瞭でない、速報性に欠ける、HP上のニュースとの役割分担が不明確、存在そのものがあまり知られていない、実際に読まれているかどうか効果が不明、等の問題点が指摘され、抜本的な見直しを行った。

図書館業務連絡会議での議論を経て、学生を対象としたちらし形態のニュースレターとして発行することを決定し、また同時にメールマガジンの発行、学内委員会等への報告、記録保存、研修教材を目的とした活動報告の作成が提案された。

附属図書館報編集委員会では、配布方法と配布部数についても検討を行い、各図書館(室)の協力による積極的な配布と残部数の把握、新たな配置場所の開拓、各所掲示板への掲示等を行うこととした。新たな『図書館の窓』は、柏図書館開館記念号として平成17年2月22日に刊行した。(PDF版は、<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/kanpo/index.html>)

#### (3) 新入生向け図書館利用ガイドの作成

新入生等を対象にした、『図書館利用ガイド2005～初めて東京大学図書館を利用するための～』(54p; B5判)を新たに編集発行した。従来、新入生向けの利用案内情報は、附属図書館報『図書館の窓』のオリエンテーション特集号として刊行していたが、16年度からは、『図書館の窓』から切り離し、利用者サービス部会情報リテラシー教育サブグループと情報基盤センター学術情報リテラシー係との協力により別途作成することとした。

このガイドは、附属図書館の各種サービスやインターネットリソースの活用方法について、カラー図版を多用して親しみやすく説明しており、17年4月に、学部および大学院の新入生のほか、学部進学者(新3年生)等に配布するとともに、教養学部前期課程の必修授業「情報処理」等での図書館利用講習会のテキストとしても活用した。今後は、図書館電子化システムリブレースによる内容改訂も必要であり、同時に多言語版ガイドを編集発行する予定である。(PDF版は、[http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/users\\_guide.pdf](http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/guide/users_guide.pdf))

#### (4) 総合図書館利用ガイド等の作成

##### ① 『総合図書館利用ガイド2005』、『General Library Guide 2005』

従来の冊子版の内容・デザイン・形態を一新し、コンパクトに概要を一覧できるより使いやすいものを目指し、A3判6つ折両面印刷のリーフレット形式にした。各部局の新入生・進学者ガイダンス等にて配布した。



## ②『総合図書館の使い方シリーズ』

「館内でのパソコン・電子機器の利用」、「図書と雑誌の探し方」、「総合図書館の歴史と現在」など、トピックスごとに簡潔でわかりやすいリーフレットを作成した。17年3月末現在、シリーズ13まで作成し、図書館職員による利用案内の際にも活用している。

(PDF版は、<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/document.html>)



## 1 4. 展示・講演会の開催

### (1) 展示会の企画と実施

附属図書館に所蔵する資料を広く学内外に公開し、利用を促進するとともに新しい知見を披露する場として、総合図書館を会場に毎年常設展示と特別展示を開催している。展示会は全学図書系職員からなる展示委員会が、関係教員の助言を得ながら企画から実施まで行っている。全ての展示会の内容は、情報基盤センターの協力を得て、電子展示としてweb上でも公開している。( <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/tenjikai/index.html> )

また、附属図書館で主催する展示会のほかに、学内外の他機関主催の展示会にも要請があれば所蔵資料の出陳を行っている。

### (2) 常設展示

常設展示は、総合図書館所蔵資料から構成した小規模な展示会であり、平成14年度から実施している。平成16年度は計3回開催し、「東京大学の歴史とキャンパス」展は柏キャンパス一般公開にあわせて、「モース文庫」展は柏図書館開館記念式典にあわせて、それぞれ総合図書館の会期終了後、柏図書館にも巡回した。

	期間	タイトル	展示点数
1	H16.3月～6月	鶚軒文庫	21点他
2	同 7月～10月	東京大学の歴史とキャンパス	13点他
3	H17.1月～2月	モース文庫	29点(35冊)他

### (3) 特別展示と講演会

特別展示は、例年秋に開催し、一般メディアにも周知するなど広く社会一般に公開する大規模な展示会として位置づけている。展示資料も広く全学から収集し、関連の講演会も併催している。

平成16年度は、11月10日～24日の15日間、総合図書館3階ホールを会場に「土肥慶蔵の医学関係資料とその時代—<sup>がっけん</sup>鶚軒文庫」と題して、明治大正期に医学部皮膚科学教授だった土肥慶蔵(1866-1931)氏が収集した貴重な古医学書を中心に約50点余りを展示し、約700名の入場を得た。11月15日には、大学院医学系研究科・加我君孝教授による記念講演会「土肥慶蔵のウィーン大学留学—花開く19世紀末のオーストリア・ドイツの医学—」も開催した。



特別展示会場風景

## 1.5. 事務改善と経費節減の取組み (総合図書館)

### (1) 平成15年度の取組み

総合図書館では、平成15年度から事務改善と経費節減の取組みを積極的に進めてきた。事務改善としては、予算執行手続きの明確化、会議の整理と簡素化等を、経費節減については、広報印刷物の経費削減、タクシーの利用制限、複写機の節約使用、節電、備品等の購入制限を実施した。

### (2) 平成16年度の取組み

前年度の取組みをさらに徹底して行うとともに、研修出張、超過勤務、広報印刷物、守衛業務、受付業務、図書館業務連絡会議のそれぞれについて、見直しを強力に推し進め、具体的な改善を実行した。

### (3) 事務改善の成果

これらの改善の結果、主に次のような効果が見られた。

- ①エレベータの使用抑制、廊下・事務室・トイレ等のこまめな照明オフにより、電気使用



料を大幅に削減することができた。また、その他の経費についても顕著な効果が見られた。

②研修出張の公募制導入により、職員の積極的な研修目的意識が生まれ、より効果的な研修となった。

③館報、展示会、講演会、各種印刷物等の見直しが行われ、より効果的かつ経済的なものとなった。

## 16. 全学図書館・室業務連絡会議の改革と業務別部会の活動

### (1) 図書館業務連絡会議

附属図書館では従来から、部課長、全学の専門員・主査以上（主査ポストのない図書室にあっては係長、さらに係長ポストのない場合は係員）をメンバーとした図書館業務連絡会議をほぼ月1回の頻度で開催し、全学的な図書館業務に関わる事項について報告・協議を行い、事務レベルでの情報と問題意識の共有を図ってきた。

平成16年度において図書館業務連絡会議の見直しを行い、1年間の試行として次のような改革を実施した。

### (2) 議論の活性化

提案・意見交換をしやすい雰囲気を醸成するため、部局順であった着席位置を自由化し、学内図書館職員は誰でも希望すれば出席することを可能とした。また従来から要望のあった会議資料の事前配布を徹底した。これらのことにより、活発な議論が実際に行われるようになり、いくつかの課題については、解決に向けた前進が可能となった。

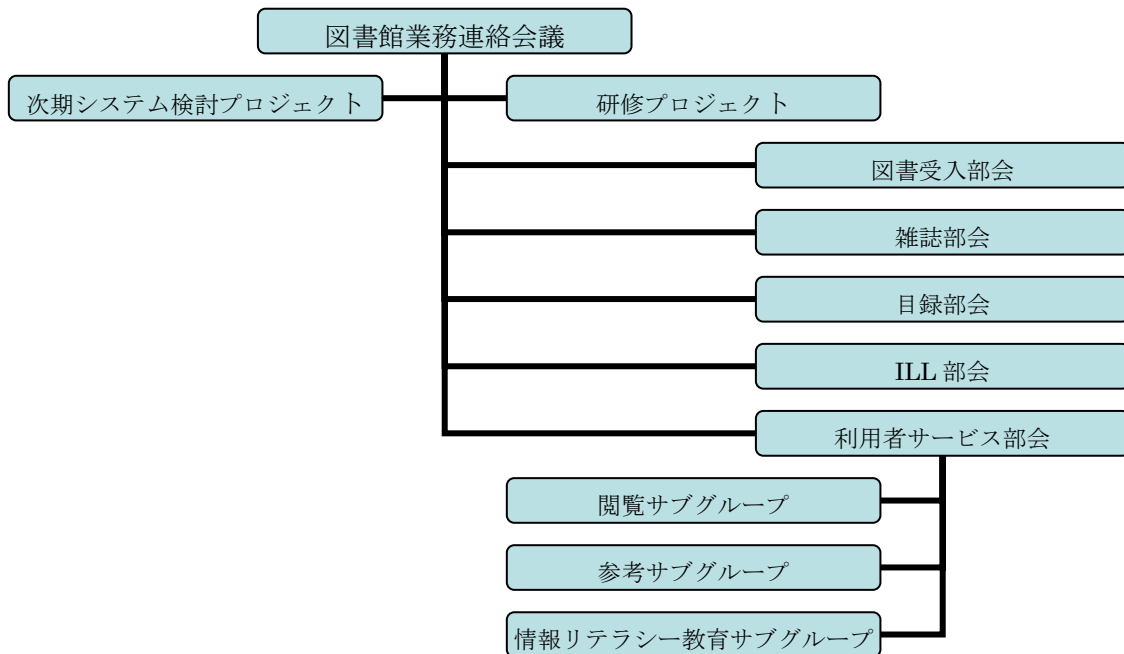
### (3) 業務別部会の設置と活動

業務ごとの全学的な運用やシステムに関する事項について協議することを目的に、図書館業務連絡会議の下に、業務別部会及びプロジェクトを新たに設置し、7月から5部会、2プロジェクトがそれぞれ活動を開始した。

部会のメンバーは全学図書館職員の公募制とし、部局からの推薦により一部補った。結果としてほぼ全員が係員という構成になり、図書受入、雑誌、目録、ILL、利用者サービスの各部会において、業務ごとの課題に積極的に取り組み、改善策の提案、業務手順書の作成、研修の実施等の成果を得た。

### (4) 今後の課題

部会の検討結果を実際のサービスとして業務ベースに乗せるにあたって、業務ラインとの調整や連携が必ずしも円滑に進まなかった面もあった。平成17年度もほぼ同様の枠組みで図書館業務連絡会議と業務別部会を運営していく予定であるが、各部会の庶務担当係が連絡調整の役割を十分に果たしていくことが必要である。

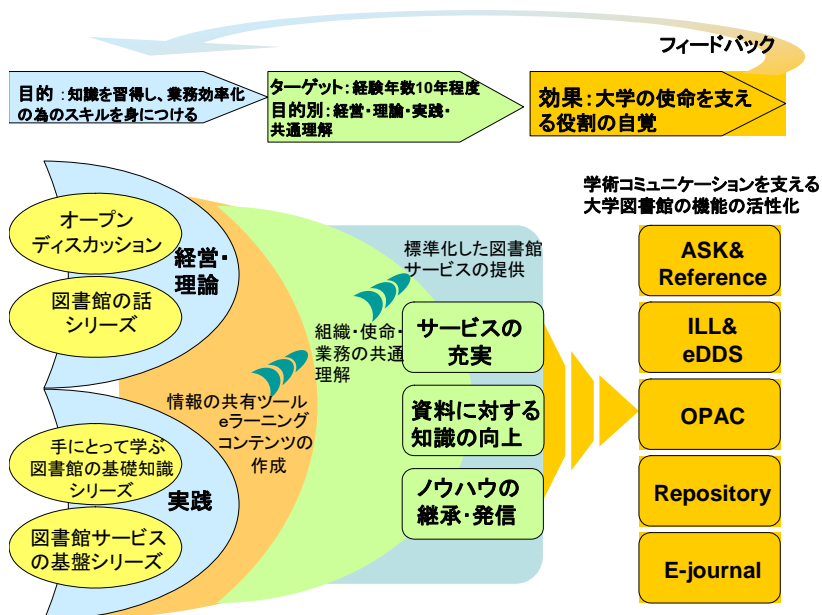


## 1.7. 職員研修の活性化

### (1) 職員研修の背景

附属図書館は、「調整された分散主義」から「共働する一つのシステム」と運営原則の発展を図り、さらに平成16年度の法人化では総合図書館、駒場図書館、柏図書館は支援部局、それ以外の52の部局図書館・室は事業部局の図書館・室となった。

図書系職員が従事する55の図書館・室は、建物の場所も環境も異なり、それぞれの教育研究の状況も多様な中で、本学の学術情報を安定的に提供し、大学における学術情報システムを構成する重要な基盤として、標準化した図書館サービスを提供するというミッションを再確認する必要が出てきた。



## (2) 研修プロジェクト

図書館業務連絡会議の下に設置した研修プロジェクトでは、附属図書館でともに働く上で必要な知識を習得し、業務を効率化・省力化するためのスキルを身につけた人材を効果的に育成していくため、業務のニーズにあった新たな目的別研修メニューを企画・実施した。受講者は経験年数 10 年程度を原則とした。

## (3) e ラーニング (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/utlsd/project/project.html>)

情報の共有という観点から、研修内容をベースとしたビデオ等の e ラーニングコンテンツのほか、「図書館員の仕事」のプレゼンテーションと「目録エキスパート研修 (図書)」の中から、附属図書館の基幹業務 (全学資料集中購入、外国雑誌一括購入、ILL、ASK、目録 [検索]) の基本として知っておくべき重要な情報をテキストとして編集し、Web に掲載して自学自習のサポート体制の構築も図った。

	研修名	日時	会場	出席者
経営理論	オープンディスカッション 「日米大学図書館の現状」	9～11 月の計 2 回	総合図書館	18 名
	図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」	10～2 月の計 4 回	総合図書館等	112 名
	手にとって学ぶ図書館の基礎知識 シリーズ	8～11 月の計 3 回	史料編纂所等	62 名
実践	図書館サービスの基盤シリーズ 「目録エキスパート研修 (図書)」	1 月の計 2 回	総合図書館	16 名

## 18. ジュニア TA の活用 (総合図書館)

### (1) ジュニア TA 制度

東京大学の新たな試みとして、平成 16 年度から大学の様々な活動に学生が積極的に参画するため、学部学生を「ジュニア・ティーチング・アシスタント」(略称ジュニア TA)に任命し、奨励金を支給する制度が始まった。

この制度を活用して総合図書館では、図書館業務に関心があり意欲のある学部学生を募集し図書館業務に参画してもらうことにした。前期 (7 月～10 月)、後期 (11 月～2 月) の 2 期に分けて、計 15 名のジュニア TA が総合図書館で活動した。

(2) 総合図書館での活動の概要

	前期(7月～10月)	後期(11月～2月)
募集方法	館内に募集チラシの掲示	
応募人数	7名	26名
採用人数	5名	13名 (継続3名、新規10名)
業務内容	①シェルフリーディング ②オープンキャンパス当日の図書館案内 ③学生用図書の選定	①シェルフリーディング ②特別活動 ③利用者ガイドのチェック
活動時間	合計292時間 (一人平均:58.4時間)	合計508時間 (一人平均:39時間)
その他	業務説明会 2回、意見交換会 2回	・業務説明会 2回、意見交換会 2回

(3) 活動の成果

総合図書館内の書架の状況が格段に改善されたことが、図書館にとって最大の成果である。また、利用者の立場、ジュニア TA の視点の両方から図書館について日頃感じていることや率直な意見を聞くことができたことも大きな収穫であった。

学生にとっては、空き時間の有効利用となり、大学を違った側面から見ることができたのではないと思われる。後期の募集では、応募人数が予想を上まわったため、最後の機会となる4年生を中心に採用枠を増やして対応したが、このことから図書館に興味があり関わりを持ちたいという意欲のある学生が多数いることがわかった。

今後も引き続き、この制度を有効に活用し、学生の図書館に対する要望や意見を聴取していくことを予定している。

付録 A-1 平成 16 年度附属図書館活動日誌

	イベント・活動内容
<b>【平成 16 年】</b>	
3 月～6 月	附属図書館常設展 「鶚軒文庫」
4 月 1 日～	リニューアル版総合図書館ホームページの公開
4 月 7 日～26 日	総合図書館オリエンテーション
4 月 8 日～22 日	図書館電子化システム講習会
4 月 14 日・15 日	法人化に関わるシステム新機能の操作説明会
5 月 13 日	柏図書館部分開館
6 月～	全学資料購入集中処理システム暫定運用開始（12 月より本格運用）
6 月 2 日	平成 17 年度外国雑誌見積合わせに関する説明会
6 月 7 日	Springer 意見交換会
7 月～10 月	附属図書館常設展 「東京大学の歴史とキャンパス」
7 月 30 日	平成 16 年度新規採用等図書館職員研修会
7 月～8 月	総合図書館ライブラリーツアー
8 月 2 日	本郷・オープンキャンパス
8 月 3 日	駒場・オープンキャンパス
8 月 26 日	【研修プログラム】手にとって学ぶ図書館の基礎知識シリーズ 第 1 回 軸・巻子・和綴じ本の扱い方と保存
9 月 2 日	オープンディスカッション 「日米大学図書館の現状」
9 月 7 日～9 日	目録システム地域講習会（図書コース）
9 月 22 日	【研修プログラム】手にとって学ぶ図書館の基礎知識シリーズ 第 2 回 洋書の保存と提供の考え方
10 月 29 日・30 日	柏キャンパス一般公開
9 月～10 月末	総合図書館マナーアップキャンペーン
10 月 28 日	【研修プログラム】図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」 第 1 回 図書・雑誌の購入
11 月 10 日～24 日	附属図書館特別展示会 「土肥慶蔵の医学関係資料とその時代」
11 月 15 日	附属図書館特別展示会記念講演会 「土肥慶蔵のウィーン大学留学—花開く 19 世紀末のオーストリア・ドイツの医学」
11 月 16 日～19 日	大学図書館職員講習会
11 月 18 日	【研修プログラム】図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」 第 2 回 柏図書館
11 月 22 日	日韓 ILL/DD サービス開始
11 月 24 日	オープン ディスカッション 「日米大学図書館の現状」
11 月 25 日	【研修プログラム】手にとって学ぶ図書館の基礎知識シリーズ 第 3 回 写真資料の扱い方と保存
12 月 17 日	【研修プログラム】図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」 第 3 回 利用者サービス
<b>【平成 17 年】</b>	
1 月～2 月	附属図書館常設展 「モース文庫」
1 月 18 日	【研修プログラム】図書館サービスの基盤シリーズ「目録エキスパート研修（図書）」 第 1 回 検索エキスパート
1 月 19 日	【研修プログラム】図書館サービスの基盤シリーズ「目録エキスパート研修（図書）」 第 2 回 入力エキスパート
2 月 1 日	学内 ILL 私費サービス開始
2 月 18 日	【研修プログラム】図書館の話シリーズ 「図書館員の仕事」 第 4 回 図書の目録と整理
2 月 22 日	柏図書館全面開館
3 月	ASK サービス（試行）開始
3 月 1 日	e-DDS サービス開始

付録 A-2 平成 16 年度附属図書館会議開催一覧

開催日	会議名称
<b>【平成 16 年】</b>	
4 月 23 日	図書行政商議会（第 370 回）
4 月 27 日	図書館業務連絡会議
5 月 18 日	拡大図書行政商議会運営委員会（平成 16 年度第 1 回）
6 月 1 日	図書館業務連絡会議
6 月 3 日	拡大図書行政商議会運営委員会（平成 16 年度第 2 回）
6 月 8 日	拡大図書行政商議会運営委員会（平成 16 年度第 3 回）
6 月 15 日	拡大図書行政商議会運営委員会（平成 16 年度第 4 回）
6 月 16 日	附属図書館サービス特別委員会（平成 16 年度第 1 回）
6 月 24 日	図書行政商議会（第 371 回）
6 月 28 日	図書館業務連絡会議
7 月 21 日	柏図書館運営委員会（平成 16 年度第 1 回）
7 月 23 日	駒場図書館運営委員会（平成 16 年度第 1 回）
7 月 27 日	図書館業務連絡会議
7 月 29 日	総合図書館運営委員会（平成 16 年度第 1 回）
8 月 6 日	学術情報電子化専門委員会（平成 16 年度第 1 回）
9 月 28 日	図書館業務連絡会議
10 月 19 日	拡大図書行政商議会運営委員会（平成 16 年度第 5 回）
10 月 25 日	附属図書館サービス特別委員会（平成 16 年度第 2 回）
11 月 2 日	拡大図書行政商議会運営委員会（平成 16 年度第 6 回）
	図書館業務連絡会議
11 月 9 日	拡大図書行政商議会運営委員会（平成 16 年度第 7 回）
11 月 15 日	駒場図書館運営委員会（平成 16 年度第 2 回）
12 月 2 日	図書行政商議会（第 372 回）
12 月 13 日	学術情報電子化専門委員会（平成 16 年度第 2 回）
12 月 14 日	図書館業務連絡会議
<b>【平成 17 年】</b>	
1 月 25 日	図書館業務連絡会議
2 月 9 日	附属図書館サービス特別委員会（平成 16 年度第 3 回）
2 月 17 日	図書行政商議会（第 373 回）
3 月 8 日	図書館業務連絡会議

付録B-1 平成16年度附属図書館統計表

平成17年3月31日現在

	職員数		蔵書数						資料費 総額 (千円)	受入資料数								館外貸出 (冊)	相互利用 (文献複写)	
			図書			逐次刊行物				図書				逐次刊行物					受付 (件)	依頼 (件)
	常勤 (人)	非常勤 (人)	和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)	和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	和文 (種)	欧文 (種)	合計 (種)	(内購入)				
大学院法学政治学研究所・法学部研究室	12	6	229,377	375,190	604,567	1,431	1,795	3,226	152,755	5,785	3,659	9,444	5,685	839	1,218	2,057	1,530	0	452	147
外国法文献センター	4	0	0	72,361	72,361	0	79	79	26,294	0	584	584	584	0	79	79	79	0	91	0
近代日本法政史料センター	3	1	54,200	800	55,000	6,986	29	7,015	5,182	255	0	255	51	0	0	0	0	0	543	0
医学図書館	10	7	105,719	163,621	269,340	3,148	2,496	5,644	92,229	2,135	2,593	4,728	1,331	906	741	1,647	771	12,402	4,010	6,792
大学院工学系研究科・工学部図書室(15室)	16	14	145,579	239,242	384,821	3,267	3,695	6,962	111,889	1,711	1,222	2,933	837	1,421	936	2,357	1,362	33,119	3,170	4,001
大学院人文社会系研究科・文学部図書室	8	13	444,781	495,945	940,726	6,267	3,982	10,249	147,414	12,733	11,796	24,529	13,292	965	983	1,948	1,274	18,145	993	807
大学院理学系研究科・理学部図書室(6室)	9	7	36,201	198,687	234,888	2,251	4,969	7,220	113,582	334	2,718	3,052	568	832	1,320	2,152	664	9,738	293	649
農学生命科学図書館	13	5	220,554	160,227	380,781	6,274	5,257	11,531	117,128	1,694	2,620	4,314	1,443	1,989	1,699	3,688	1,589	23,653	9,306	1,637
経済学部図書館	13	10	415,013	301,785	716,798	7,107	4,816	11,923	69,903	10,552	3,102	13,654	4,448	687	465	1,152	539	34,350	346	269
駒場図書館 (総合文化研究科図書館・自然科学図書室を含む)	18	20	464,711	458,907	923,618	1,913	2,635	4,548	171,585	9,666	6,815	16,481	13,000	654	1,653	2,307	1,769	108,599	777	3,279
アメリカ太平洋地域研究センター	3	2	5,411	60,442	65,853	160	960	1,120	10,573	791	875	1,666	546	78	84	162	77	3,512	0	0
大学院教育学研究科・教育学部図書室	4	2	55,303	50,973	106,276	2,194	959	3,153	19,838	1,302	656	1,958	620	702	317	1,019	457	12,731	1,021	908
薬学図書館	2	1	9,343	28,619	37,962	299	287	586	24,373	396	677	1,073	77	169	82	251	98	1,803	170	313
大学院数理科学研究科図書室	3	3	11,242	111,397	122,639	149	1,306	1,455	69,937	232	2,212	2,444	1,077	35	521	556	353	7,711	381	67
大学院情報学環・学際情報学府図書室	4	2	65,798	51,049	116,847	1,387	1,333	2,720	8,481	250	204	454	280	222	133	355	207	5,267	541	124
社会情報研究資料センター			12,425	4,709	17,134	0	0	0	11,550	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻図書室	1	0	3,300	16,831	20,131	247	322	569	14,351	106	945	1,051	437	98	179	277	254	1,489	43	22
医科学研究所図書室	2	1	9,697	56,026	65,723	320	963	1,283	33,493	29	1,036	1,065	121	12	152	164	137	3,110	409	616
地震研究所図書室	3	1	19,168	30,973	50,141	743	1,027	1,770	20,342	168	335	503	80	564	639	1,203	167	1,363	104	31
東洋文化研究所図書室	6	4	467,129	159,622	626,751	2,823	3,710	6,533	42,904	4,900	6,751	11,651	6,511	586	1,066	1,652	869	175	671	41
社会科学研究所図書室	8	1	185,190	127,159	312,349	4,873	2,727	7,600	31,279	3,303	1,177	4,480	1,023	976	463	1,439	686	11,005	200	103
生産技術研究所図書室	3	0	61,790	98,100	159,890	960	1,285	2,245	38,761	55	20	75	56	430	400	830	373	1,260	360	1,720
史料編纂所図書室	9	6	478,299	13,638	491,937	2,319	182	2,501	41,764	7,010	212	7,222	1,565	808	15	823	101	0	111	3
分子細胞生物学研究所図書室	1	2	1,077	19,983	21,060	42	406	448	5,308	0	0	0	0	165	28	193	3	228	255	62
宇宙線研究所図書室	0	1	800	19,296	20,096	21	214	235	30,292	8	170	178	160	14	62	76	70	167	1	1
物性研究所図書室	2	1	4,489	53,462	57,951	88	596	684	63,497	11	149	160	160	38	175	213	200	1,603	162	72
海洋研究所図書室	2	1	8,416	30,486	38,902	1,064	846	1,910	26,516	53	540	593	567	734	446	1,180	181	1,244	253	203
情報基盤センター情報資料室	1	0	4,651	3,955	8,606	63	88	151	6,529	0	0	0	0	29	48	77	68	34	0	0
総合研究博物館図書室	1	1	3,185	2,098	5,283	2,397	675	3,072	106	233	2	235	2	476	92	568	0	0	0	0
アイソトープ総合センター図書室	0	2	29	269	298	35	32	67	546	42	9	51	21	5	3	8	5	15	0	0
先端科学技術研究センター図書室	2	2	19,360	55,125	74,485	267	1,272	1,539	3,509	190	132	322	176	15	7	22	10	639	135	1,293
部局図書館(室)計	163	116	3,542,237	3,460,977	7,003,214	59,095	48,943	108,038	1,511,910	63,944	51,211	115,155	54,718	14,449	14,006	28,455	13,893	293,362	24,798	23,160
総合図書館	44	5	738,026	436,435	1,174,461	11,815	14,190	26,005	91,958	9,660	3,982	13,642	6,412	2,975	733	3,708	323	132,321	1,441	25
柏図書館	6	2	10,957	121,053	132,010	101	5,722	5,823	20,412	10,957	121,053	132,010	3,516	17	2	19	19	2,248	122	780
総計	213	123	4,291,220	4,018,465	8,309,685	71,011	68,855	139,866	1,624,280	84,561	176,246	260,807	64,646	17,441	14,741	32,182	14,235	427,931	26,361	23,965

(社)日本図書館協会大学図書館調査より

## 付録B-2 附属図書館統計経年変化

